

(様式第A-2号) 栽培計画書(生産資材利用・栽培計画)【農産物関係】

作型区分が複数にわたる場合は、作型区分ごとに作成のうえ、様式第A-1号に添付。

登録申請者 氏名・法人名			
対象品目		適用する栽培基準	
品目番号(イ)	品目名(ロ)	区分番号(ハ)	区分名(ニ)
			計画面積 (アール)
			品種名等

(イ)～(ニ)は、栽培基準表と対応

1. 栽培概要

栽培環境	土耕栽培		ベッド栽培
	露地	施設	

作付回数	
年	作
間	

穀類・茶のみ記入(該当に を付す)

乾燥調整の実施(施設)	
登録者が所有する施設	
外部に委託する	

該当する欄に を付す。

栽培期間				収穫期間			
1作	月	～	月	1作	月	～	月
2作	月	～	月	2作	月	～	月
3作	月	～	月	3作	月	～	月
4作	月	～	月	4作	月	～	月
5作	月	～	月	5作	月	～	月

2. 加工の実施

申請品目の加工品を製造販売する計画がある場合、加工品にも認定マークの使用を希望しますか。

希望する	希望しない (加工しない)

注) 認定マークの使用が認められる加工の種類は次の通りです。(登録・認定基準別表3を参照)

【精米】【仕上げ茶加工】【裁断】【乾燥】【粉碎】【製粉】【焙煎】【搾汁・搾油】【精麦】

認定マークの使用を希望する場合は様式第C号及び添付資料を添付してください。(生産者が自ら加工販売を行う場合)

生産者と別の事業者が加工販売を行う場合は、「人と自然にやさしいみえの安心食材表示制度対象品目及び登録・認定基準別表3」による登録申請が必要です。(申請様式:様式第B号及びその添付資料)

3. 生産資材概要 様式第A-2- 号によって内訳を添付してください。

(1) 土づくりの概要

たい肥などの施用	
緑肥作物・作物残渣の導入	
土壌改良資材の施用	

「ベッド栽培基準」による申請者は、記入の必要はありません。

(2) 化学肥料・化学合成農薬投入上限値 「ベッド栽培基準」による申請は、化学合成農薬のみ記入。

投入資材上限値 * 該当する投入量を、別表「栽培基準表」より選択・記入してください。

化学窒素の投入上限(ホ)		kg/10a
--------------	--	--------

化学合成農薬の投入上限(ヘ)		成分回数
----------------	--	------

(3) 総窒素・化学窒素及び化学合成農薬投入計画値

「ベッド栽培基準」による申請は、化学合成農薬のみ記入。

化学窒素の投入量 (様式第A-2- 号の(J))		～		kg/10a
有機態窒素の投入量 (様式第A-2- 号の(I))		～		kg/10a
総窒素投入量 (様式第A-2- 号の(H))		～		kg/10a

化学合成農薬の投入量 (様式第A-2- 号の(O))		～		成分回
-------------------------------	--	---	--	-----

節減対象農薬の成分回数を記入する。

Hは、{一般栽培レベル + {(一般栽培レベル) - (J)} }を超えないよう留意すること。 1作当たりの投入量を記入してください。

様式第A-2- 号に基づく栽培内容を記入してください。また、複数の作型基準が存在する場合は、作型基準別に作成して下さい。

様式第A-2- 号と □ ～ □ 枠について

団体全体が同一作型であっても、複数の栽培体系により様式A-2- 号が複数になる場合は、最小値を左、最大値を右枠に記入。

栽培計画書(生産資材利用・栽培計画内訳書)

1. 土づくり技術実施計画等

記入上の注意事項

- ・土耕栽培基準による申請者は、1(1)～(3)・2・3・4の項目について記入してください。
- ・ベッド栽培基準による申請者は、1(4)及び2・4の項目のみ記入してください。

(1) たい肥等施用計画 (登録・認定基準における1.(1)に該当するもののみ)

時期	資材名	C/N	窒素含量(%)	投入量(t/10a)	主な原料 主な有機資源	備考 (資材入手先など)

(2) 緑肥・作物残渣の利用計画 (登録・認定基準における1.(2)に該当するもののみ)

緑肥作物名	施用・播種時期	施用・播種量
		kg/10a
		kg/10a
		kg/10a

(3) 土壌改良資材の利用計画 (登録・認定基準における1.(3)に該当するもののみ)

土壌改良材の名称	施用時期	施用量
		kg/10a
		kg/10a
		kg/10a

(4) ベッド栽培について

ベッド資材について	施肥方法について
	液肥(養液)・固形肥料・その他
	その他の場合概要を以下に記入してください。

記入例:ロックウール使用 該当するものに を付す

2. 土づくり、肥料、防除いずれにも該当しない資材

資材の名称	施用時期	施用量

栽培計画書（生産資材利用・栽培計画内訳書）

4. 化学合成農薬低減技術実施計画

(1) 化学農薬節減のための導入技術……該当欄に 印を付し、概要を右枠に記入してください。

温湯種子消毒 マルチ栽培 フェロモン剤利用 機械除草 除草用動物等利用 被覆栽培 土壌還元消毒	生物農薬利用 熱利用土壌消毒 対抗植物利用 抵抗性品種栽培・台木利用 光利用 その他	技術内容の概要 (使用する資材や機材の名称など)
---	---	-----------------------------

(2) 農薬使用計画

成分数の合計: (M) (mの合計)	成分 回数
節減対象外の合計: (N) (nの合計)	成分 回数
対象成分数の合計: (O) (M - N)	成分 回数

種苗入手方法について(該当に 印を付してください)

	自家	購入	備考 (種子更新の時期、購入先など)
種子			
苗			

使用計画内訳

* 年間に複数回作付けする場合には、最も多くの化学合成農薬を使用する作について記入すること。

	使用 時期	対象病害虫 (使用目的)	使用農薬名 (略称ではなく正確に記入)	成分数 (m)	節減対象外 成分数(n)
(畦畔除草含む) 除草剤関連					
種子・育苗関連					
本ば関連					

不足する場合は次頁へ

